

ALPS処理水の処分に関する 安全対策・風評対策の最近の動向

トピック集 2026年1月

販促・魅力発信

三陸あわび応援フェア(ごひいき！三陸・常磐キャンペーン)

- 日本一の生産量を誇る岩手県産あわびの美味しさと魅力を、岩手県を訪れた方々および県内在住の方々に向けて発信しました。
- 具体的には、①対面での県産あわびの特徴・商品の説明、PR動画の上映、試食の提供を通じて発信するとともに、②創意工夫を凝らした多彩なあわび加工品等の販売することで、岩手県産あわびの魅力発信・消費拡大を図りました。

日 時：1月24日(土)～1月25日(日) 10:00～17:00

場 所：盛岡駅ビル「フェザン」

出品者：(有)野村畜養場、正栄北日本水産(株)、Cafe de Curry
KOJIKI、野村海産(株)、(株)熊谷鉄工所、帝塚山学院大学



イベントの様子

魅力的な商品の試食販売

- 試食コーナーを設け、岩手県産あわびの美味しさと魅力を発信。また、あわび加工品の多様な楽しみ方を紹介し、利用イメージを持ちやすくしたことで、ご来訪者の理解が深まり、販売を促進しました。



生産地や生産者の魅力を発信

- モニターでPR動画を上映するとともに、パンフレットを配布。ご家族の体験スペースも併設し、生産地や生産者の取組についても発信し、関心を高めました。



来場者の声・反応

- “あわびの試食は初めて”“手に取りやすい価格の商品もあった”といった声が寄せられました。産地のこだわりや安全性への理解が深まり、県産あわびへの関心が一段と高まった様子が伺えました。



- 12月6・7日の2日間、兵庫県南あわじ市の産直市場「美菜恋来屋（みなこいこいや）」にて、相双機構の主催で、福島県の水産加工品の販売会である「ふくしま常磐大漁市」を出店。一昨年、昨年に続き3回目の開催。
- 本イベントでは、**福島県の水産加工業者等11社の商品30品を販売**。また、マルリフーズの「かけるあおさ」や福島県漁連の「めひかり唐揚げ」「さんまのポーポー焼き」などの試食を実施。
- 開催期間中は多くのお客様にご来場いただいた。お客様からは「めひかりは初めて聞いた魚です。食べてみたいので調理方法が知りたい。」「昨年、一昨年もフェアやってましたよね。旦那がいわき市出身で、2人で楽しみにしていました。たくさん買いだめしていきます！」「福島が好きです。」など、多くの応援の声をいただいた。

ふくしま常磐大漁市 in 美菜恋来屋（南あわじ市）



会場の様子

理解釀成

- **ALPS処理水に係るモニタリングの結果を一目でわかるマーク形式で表示**するページについて、**Yahoo!JAPANのトップページにバナー広告を掲載。**

ALPS処理水に係るモニタリングページ（抜粋）

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと

- ALPS処理水って何？
本当に安全なの？
- トリチウムって何？
- なぜALPS処理水を
処分しなければ
ならないの？
- 本当に海洋放出しても
大丈夫なの？
- 近海でとれた
魚は大丈夫なの？

ALPS処理水に係る
モニタリング

経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry

Twitter Facebook Line Email

日本語 | English

安全対策・
風評対策の取組 > 関連コンテンツ >

ALPS処理水に係るモニタリング

ALPS処理水は、放出前に、含まれる放射性物質の濃度測定を行い、安全基準を下回っていることを必ず確認するなど、厳格に管理されて放出が行われることから、近傍に生息する魚などの食品の安全性の問題は生じません。さらに、放出前後で、海水、魚類、海藻類のモニタリングを強化して実施し、状況を確認していきます。

ALPS処理水の分析結果

放出完了した水 ※

東京電力及び第三者機関のJAEAが放出前のALPS処理水の分析を行い、いずれも基準を満たしていることを確認しました

※7月10日に採取を行ったALPS処理水（K4-Aタンク）
※基準：トリチウム以外の告示濃度比値和1未満

放出完了した水 ※

東京電力及び第三者機関のJAEAが放出前のALPS処理水の分析を行い、いずれも基準を満たしていることを確認しました

※12月22日に採取を行ったALPS処理水（K4-Bタンク）
※基準：トリチウム以外の告示濃度比値和1未満

東京電力福島第一原子力発電所近傍海域のモニタリング結果（海水・魚に含まれるトリチウム）

現在の状態 ※

異常なし

※最新の各種間での分析結果をもとにしています

凡例

- 異常なし：「放出停止判断レベル」（設備の運用状況等の確認が必要な指標）を超えていないときに表示
- ⚠ 「放出停止判断レベル」を超えるときに表示

※「放出停止判断レベル」は、「放水口付近で700Bq/L」「放水口付近の外側10km四方内で30Bq/L」と定めています。これを超えた場合でも、周辺海域のトリチウム濃度は安全基準60,000 Bq/LやWHO飲料水基準10,000 Bq/Lを十分下回り、周辺海域は安全な状態です。

Yahoo!JAPAN バナー広告

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと

周辺の
海の状況は
どうなっているの？

経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと

海水や魚は
大丈夫なの？

経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry

ページはこちら

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

- 「ALPS 処理水について知ってほしい5つのこと」をそれぞれ1分程度でわかりやすく解説する動画について動画広告を展開。
(動画はそれぞれ画像左下の2次元コードからご覧いただけます。)

1分程度でわかりやすく解説する動画

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
ALPS 処理水って何？
本当に安全なの？




- ① ALPS処理水って何？
本当に安全なの？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
トリチウムって何？




- ② トリチウムって何？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
なぜALPS処理水を
処分しなければならないの？




- ③ なぜALPS処理水を
処分しなければならないの？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
本当に海洋放出をしても
大丈夫なの？




- ④ 本当に海洋放出をしても
大丈夫なの？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
近海でとれた魚は
大丈夫なの？




- ⑤ 近海でとれた魚は
大丈夫なの？

- 2026年1月10日、11日に開催された「双葉町ダルマ市」において、**東京電力福島第一原子力発電所の廃炉やALPS処理水に関するブースを出展**。来場者の方々に福島第一原子力発電所のジオラマを用いて説明するとともに、パンフレットの配布を行った。

イベントの様子



- 1月20日、午前10時45分から約30分間、国光あやの外務副大臣は、訪日中の国際原子力機関（IAEA）理事（フィリピン、チリ、ガーナ、タイ）による表敬を受けました。
- **国光副大臣から、ALPS処理水の海洋放出を含む廃炉の取組や北朝鮮の完全な非核化の重要性についても説明し、IAEA及び関係各国と緊密に連携していきたい旨述べました。**
- **これに対し、各IAEA理事は、我が国の招へいに謝辞を述べつつ、今回の訪問を通じて日本の原子力の平和的利用、原子力安全、フュージョンエネルギー等への取組に関する理解を深めることを期待している、IAEA場裏において、日本との連携を引き続き強化していきたい旨述べました。**

【外務省】 国際原子力機関理事による国光外務副大臣表敬

https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/pressit_000001_03233.html



安全確保

東京電力

○海水中トリチウムを測定

- 放水口周辺 4 地点毎日、その他 6 地点で週 2 回（放出期間中）、放水口周辺 4 地点週 1 回、その他 6 地点で月 1 回（放出停止期間中）迅速分析を実施。

水産庁

○水産物は年約380検体でトリチウムを測定

- ①放水口の北北東へ約 4 km、②放水口の南南東へ約 5 kmの **2 地点で、週 4 回迅速分析を実施**（放出のない期間は週 1 回）

環境省

○海水中トリチウムを測定

- 放出期間中、放水口近傍 3 地点で期間中 2 回、その他沿岸20地点で期間中 1 回、迅速分析を実施。

（参考）原子力規制庁

○海水中トリチウムを精密分析にて測定。

- 20km以上離れた海域や、宮城県沖南部、茨城県沖北部でも、精密分析を実施。



計画どおりに安全に放出できていることを確認

- 2022年8月から、東京電力が、東京電力福島第一原子力発電所の廃炉の取組について、**定期的に地元紙（福島民報、福島民友、岩手日報、河北新報、茨城新聞）に広告を掲載。**
- 本年1月は2回掲載しており、今後も**月1～2回の頻度で継続的に実施を予定。**

新聞への広告掲載内容（左上：モニタリング状況のお知らせ、 右下：ALPS処理水の2025年度海洋放出実績）

福島第一原子力発電所「周辺海域のモニタリング状況」のお知らせ(2026年1月)

東京電力ホールディングスは2022年4月から、発電所近傍や福島県沿岸の海域において、トリチウムを含む放射性物質の監視（モニタリング）を強化しています。

海域モニタリングにおけるトリチウム濃度は、運用上の指標（放出停止判断レベル：700ベクレル/ℓ）を大きく下回り、計画どおり安全に放出できていることを確認しています。引き続き、ALPS処理水の海洋放出における安全性の確保に万全を期してまいります。

3km圏内（海内を離く）



20km圏内



	エリア	海水の測定結果【単位：ベクレル/ℓ】 （2025年12月1日～12月未定までに得られた測定結果の最大値）
トリチウム 【測定項目】	3km圏内	35
	20km圏内	検出せず（＜8.4）
セシウム134**	3km圏内	検出せず（＜1.9）
	20km圏内	検出せず（＜0.0014）
セシウム137**	3km圏内	2.1
	20km圏内	0.024

＜注＞①の表の数字は検出下限値。検出下限値を下回った場合は、検出せずと記載。
*1：トリチウムの検出下限値はリットルあたり10ベクレル程度とし、測定時間を短縮して測定。
*2：福島県沿岸海域における海水の放射能濃度は、セシウム134：0.0005ベクレル/ℓ、セシウム137：0.0002ベクレル/ℓ、0.45ベクレル/ℓ（国・日本の環境放射線と放射能汚染物質の濃度）。

②：福島県沿岸海域における海水の放射能濃度は、セシウム134：0.0005ベクレル/ℓ、セシウム137：0.0002ベクレル/ℓ、0.45ベクレル/ℓ（国・日本の環境放射線と放射能汚染物質の濃度）。

③：福島県沿岸海域における海水の放射能濃度は、セシウム134：0.0005ベクレル/ℓ、セシウム137：0.0002ベクレル/ℓ、0.45ベクレル/ℓ（国・日本の環境放射線と放射能汚染物質の濃度）。

ALPS処理水の海洋放出は、安全性を確保して、計画通り進めています。

▶2025年度は、ALPS処理水を7回放出する計画で、12月までに6回実施しました。現在、中長期的な設備の健全性の確保に向けた点検を行っています。（7回目の放出は2026年3月を予定）
今年度は、7回合計で約54,600m³、トリチウム総量で約15兆ベクレル^{※1}を放出する計画です。注事前の放出管理値と同じ年間22兆ベクレルの範囲内

▶ALPS処理水は、放射性物質濃度（トリチウムを除く）が、安全に関する規制基準を満たしていることを確認（下表①）し、さらに、トリチウム濃度が国の規制基準の1/40を下回るまで大量の海水で希釈してから海洋に放出しています（下表②）。

▶これまで、発電所周辺の海水のトリチウム濃度は、運用上の指標（放出停止判断レベル：700ベクレル/リットル）を大きく下回っています（下表③）。

▶IAEAは、2023年7月公表の「包括報告書」において、「ALPS処理水の海洋放出に対する日本の取組みは、関連する国際安全基準に合致している」[「東京電力により計画されたALPS処理水の海洋放出は、人及び環境に対し、無視できるほどの放射線影響となる」と結論付けました。直近では、昨年12月に行われたALPS処理水の海洋放出に関する安全性レビュー後、IAEAは、「包括報告書の結論を再確認した」との内容を公表しています。

【2025年度放出実績】 1回目：4/10～4/28、2回目：7/14～8/3、3回目：8/7～8/25、4回目：9/11～9/29、5回目：10/30～11/17、6回目：12/4～12/22

処理水の放出量 （1～6回合計）	トリチウム総量 （1～6回合計）	①トリチウム以外の 放射性物質の濃度	②希釈後のトリチウム濃度*1 （1,500ベクレル/リットル未満*2）	③海水のトリチウムのモニタリング結果
47,177m ³	約14.0兆ベクレル	0.083～0.19 < 1	最大500 ベクレル/リットル	最大61 ベクレル/リットル
				検出せず

*1. 海水に混入して濃化したトリチウムの濃度（不確かさ（95パーセントの信頼））を考慮した値。
*2. 1,500ベクレル/リットル未満の方で得られたトリチウム濃度の上限（国・日本の環境放射線と放射能汚染物質の濃度）
*3. 各指標の濃度の放出上の限度に対する比を求め、それを合計したものである。

福島第一原子力発電所「周辺海域のモニタリング状況」のお知らせ(2026年1月)

東京電力ホールディングスは2022年4月から、発電所近傍や福島県沿岸の海域において、トリチウムを含む放射性物質の監視（モニタリング）を強化しています。

海域モニタリングにおけるトリチウム濃度は、運用上の指標（放出停止判断レベル：700ベクレル/ℓ）を大きく下回り、計画どおり安全に放出できていることを確認しています。引き続き、ALPS処理水の海洋放出における安全性の確保に万全を期してまいります。

福島第一原子力発電所の廃炉の現状と取組みをお伝えします Vol.53

福島第一原子力発電所の放射性物質によるリスクを継続的に軽減する「廃炉・汚染水・処理水対策」の取組みについてお知らせします。「復興と廃炉の両立」に向けて、廃炉を安全かつ着実に進めてまいります。

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー（福）

ALPS処理水に関する情報はこちらをご覧ください
▶「処理水ポータルサイト」
▶<https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/water/treatment/>

ALPS処理水の放出実績についてはこちらをご覧ください
▶「放出実績」
▶https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/water/treatment/performance_of_discharges/

福島第一原子力発電所の廃炉・汚染水・処理水対策
▶「皆さまの意見をお聞かせください」
▶<https://www.tepco.co.jp/decommission/voices.html>

東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー
〒979-1301 福島県双葉郡大町大字大平2-22

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.